Ⅳ　地域別情報

県では地域づくりの中心的役割を担う市町村に対して組織的な支援を行うことを目的として、県内６地域に地域県民局を設置しているが、地域ごとに産業や風土に様々な特色がある。

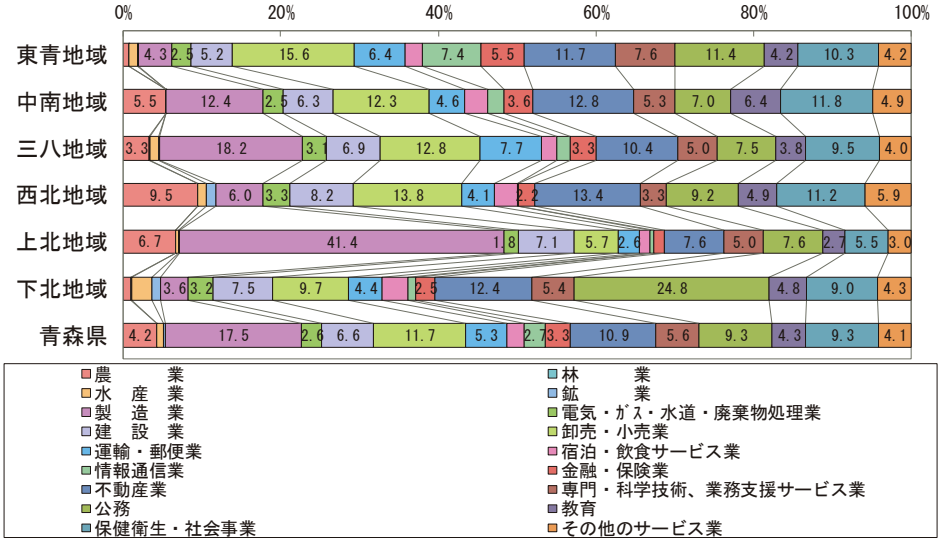
ここでは、地域の産業構造の比較やその特長を紹介するとともに、地域別の主な指標について掲載する。

1　地域別の産業構造

各地域の域内総生産について、経済活動別に構成割合を見ると、上北地域を除いた５地域で第３次産業の割合が７割を超えており、特に、東青地域・下北地域では８割超と高くなっている。**（図１）**

他地域との比較で見ると、東青地域は「卸売・小売業」、中南地域は「保健衛生・社会事業」、三八地域・上北地域は「製造業」、西北地域は「不動産業」、下北地域は「公務」が大きな割合を占めている。

図１　地域別の域内総生産（2016年度）



※　税等を控除していないため、合計は100%を超える。　　資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

※産業分類

第１次産業：農業、林業、水産業

第２次産業：鉱業、製造業、建設業

第３次産業：電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、
運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業
不動産業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、
保健衛生・社会事業、その他のサービス業

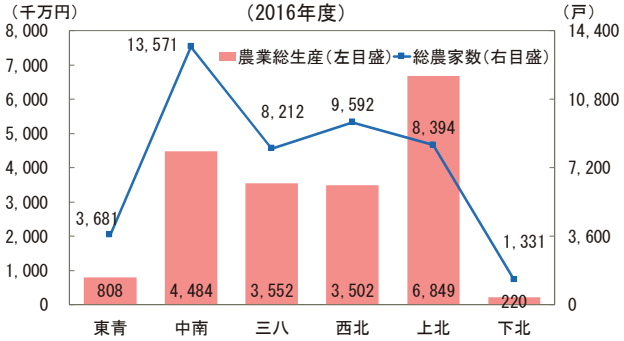
2　産業別に見る地域の特長

(1)　農業の盛んな中南・西北・上北地域

2016 年度の農業総生産は上北地域が最も高い。また、市町村別では、弘前市が 254 億 6,400 万円で最も高く、次いで十和田市の 156 億 9,400 万円となっている。

一方、総農家数では中南地域が最も多く、次いで西北地域、上北地域の順となっている。（図２）

図２　農業総生産及び総農家数
（2016年度）

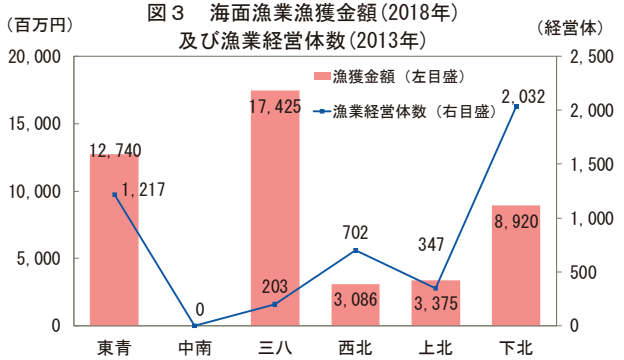


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」、「2015年農林業センサス」

(2)　水産業の盛んな三八・東青・下北地域

2018 年の海面漁業漁獲金額は、八戸港を擁する三八地域が約 174 億円と最も高くなったが、2017 年の約 194 億円からは約 10.1%の減となった。また、漁業経営体数を見ると、下北地域や東青地域の水準と三八地域の水準の差が特徴的である。（図３）

図３　海面漁業漁獲金額（2018年）
及び漁業経営体数（2013年）

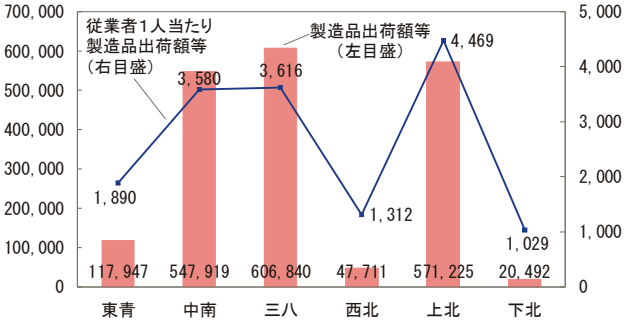


資料：県農林水産部「平成30年青森県海面漁業に関する調査結果書（属地調査年報）」
農林水産省「2013年漁業センサス」　　※三沢市、おいらせ町は三八に含む

(3)　製造業を支える三八・上北地域

2017 年の製造品出荷額等では、ものづくり産業の拠点である三八地域が 6,068 億円と最も高く、県内の約 31.7%を占めている。従業者 1 人当たりの製造品出荷額等では、2016 年と同様に上北地域が最も高い水準となった。**（図４）**

図４　製造品出荷額等（2017年）



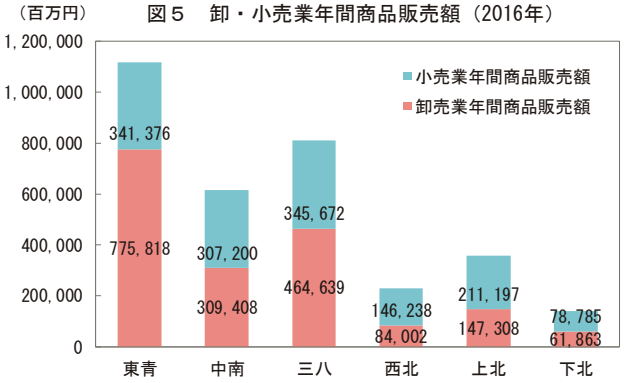
資料：県企画政策部「青森県の工業」
※従業者1人当たり製造品出荷額等は、各地域における製造品出荷額等を従業者数で除して算出。

(4)　商業の中心地・東青地域

2016 年の卸・小売業年間商品販売額をみると、東青地域が最も多く、このうち青森市が占める割合は約 99%となっている。

三八地域に占める八戸市の割合は約 93%、中南地域に占める弘前市の割合は約 80%であり、青森市、八戸市、弘前市に商業機能が集中していることがわかる。**（図５）**

図５　卸・小売業年間商品販売額（2016年）



資料：総務省「経済センサス」

(5)　観光客が多く訪れる三八・中南地域

2018 年の観光客入込数は、県全体としてはおおむね横ばいで推移しており、地域別の比較では三八地域が 2010 年から 9 年連続で最も高い入込数となった。

（図６）

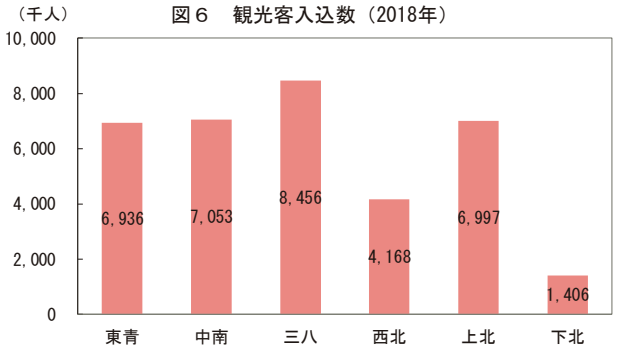


図６　観光客入込数（2018年）

資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

(6)　１人当たり市町村民所得の高い上北地域

2016 年度の市町村民経済計算を見ると、1 人当たり市町村民所得は、六ケ所村、西目屋村、東通村、八戸市、おいらせ町の順に高い値を示しており、これらの市町村を擁する地域が高い値を示す傾向がある。地域別に見ると、上北地域の 3,189 千円が最も高く、三八地域 2,636 千円、東青地域 2,519 千円の順に続いている。

（図７）

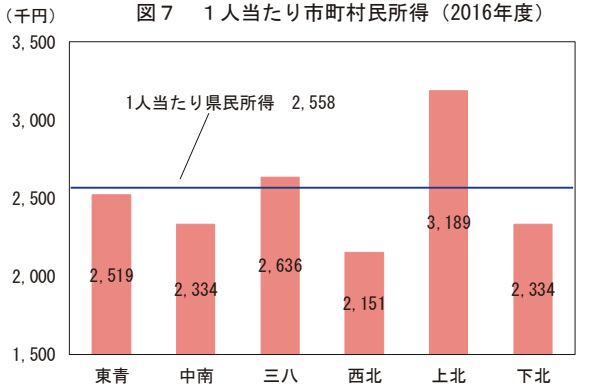


図７　１人当たり市町村民所得（2016年度）

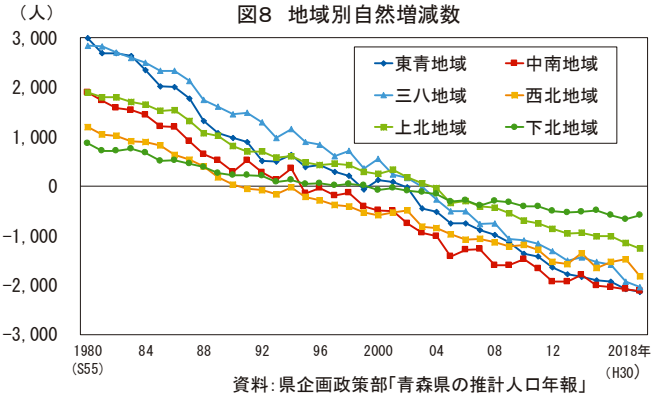
資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

(7)　各地域の人口動態

＜自然動態＞

各地域の自然動態（出生数－死亡数）を見ると、西北地域が他地域に先駆けて1991 年から自然減となった。全県的に自然減に転じたのは 1999 年であったが、三八地域は 2003 年、上北地域は 2004 年と比較的遅い段階で自然減となり、その後は、全ての地域において自然減が続いている。**（図８）**

図8　地域別自然増減数

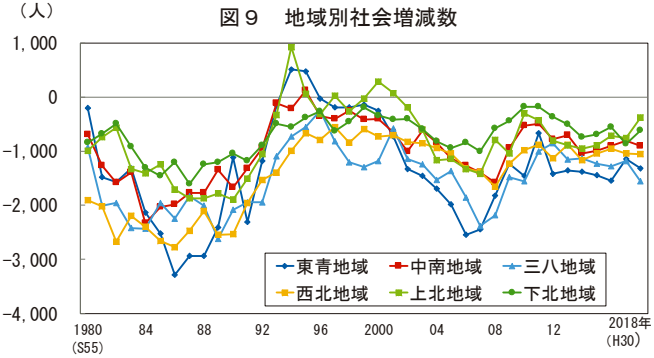


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

(8)　各地域の社会動態

各地域の社会動態（転入者数－転出者数）を見ると、特に東青地域や上北地域では、年ごとに大きな変化が見られ、経済情勢等による影響を大きく受けているものと考えられる。また、三八、西北、下北では 1980 年以降一貫して、2002 年以降は全ての地域において社会減が続いている。**（図９）**

図９　地域別社会増減数



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

3　地域の現状

東青地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
青森市	282,061	136,456	824.62
平内町	11,016	4,951	217.09
今別町	2,636	1,419	125.27
蓬田村	2,792	1,155	80.84
外ヶ浜町	6,024	2,892	230.30
合計	304,529	146,873	1,478.12

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

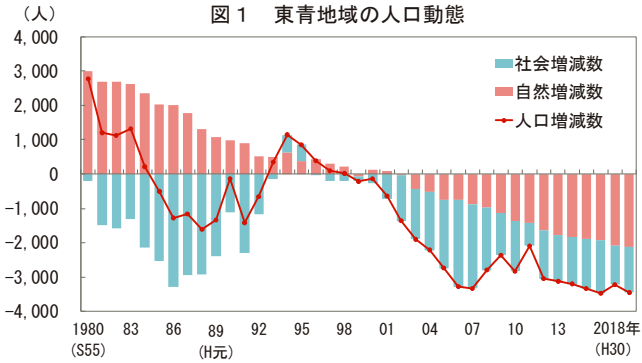
地点 青　森	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	10.4	27.7	-3.9	1,602.7	1,300.1	669
2019	11.5	35.5	-8.3	1,865.1	1,034.5	546

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

東青地域の自然動態は、2002 年以降、減少が続いており、減少幅が年々拡大している。社会動態は、2007 年以降は減少幅が縮小する時期もあったが、2013 年以降再び減少幅が拡大傾向にある。**（図１）**

図１　東青地域の人口動態



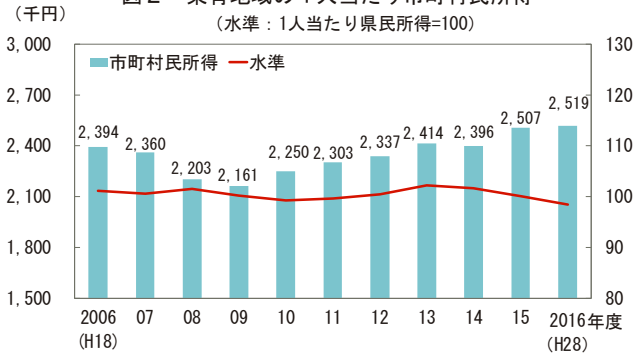
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

東青地域の１人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、2010 年度以降は概ね増加傾向にある。

また、１人当たり県民所得に対する東青地域の１人当たり市町村民所得の水準は、2013 年までは横ばい傾向にあったが、2014 年以降低下している。**（図２）**

図２　東青地域の１人当たり市町村民所得

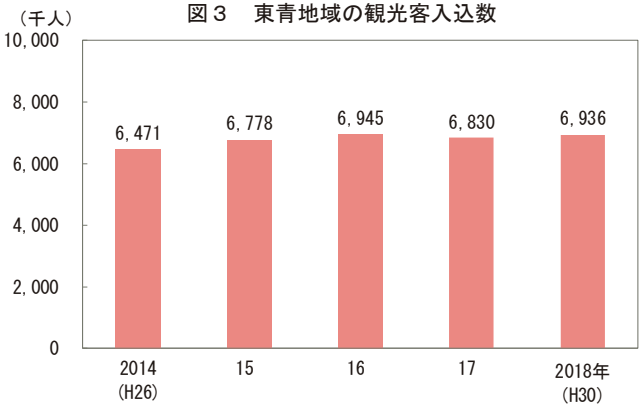


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

東青地域の観光客入込数は、2014 年以降 600 万人以上で推移しており、2018 年は年間約 694 万人となった。**（図３）**

図３　東青地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

中南地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
弘前市	170,452	79,633	524.20
黒石市	33,284	13,750	217.05
平川市	31,282	11,975	346.01
西目屋村	1,367	545	246.02
藤崎町	15,084	6,047	37.29
大鰐町	9,556	4,215	163.43
田舎館村	7,818	2,775	22.35
合計	268,843	118,940	1,556.35

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

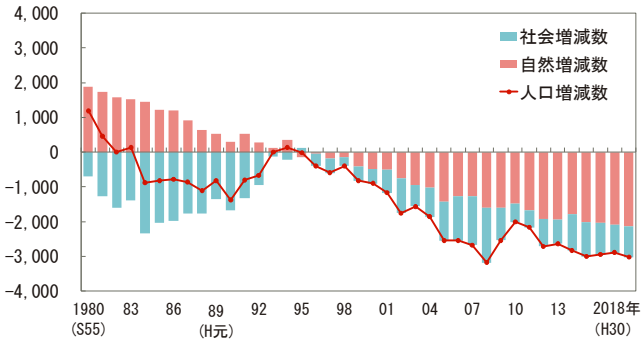
地点 十和田	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	9.5	26.9	-6.3	1,774.7	983.3	437
2019	10.2	34.2	-15.0	1,994.9	844.5	335

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

中南地域の自然動態は、1995 年以降、減少が続いており、減少幅も拡大傾向にある。社会動態は 2015 年以降 3 年連続で減少数が縮小していたが、2018 年には拡大に転じた。**（図 1）**

図 1　中南地域の人口動態



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

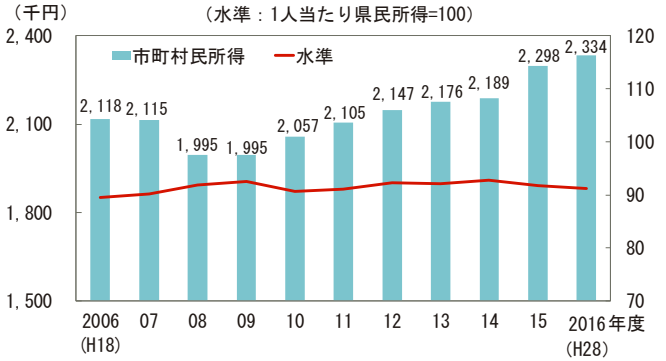
■１人当たり市町村民所得

中南地域の１人当たり市町村民所得は、2009 年度から増加傾向にある。

また、１人当たり県民所得に対する中南地域の１人当たり市町村民所得の水準は、2009 年度以降はほぼ横ばいの状況にある。**（図２）**

図２　中南地域の１人当たり市町村民所得

（水準：1人当たり県民所得=100）

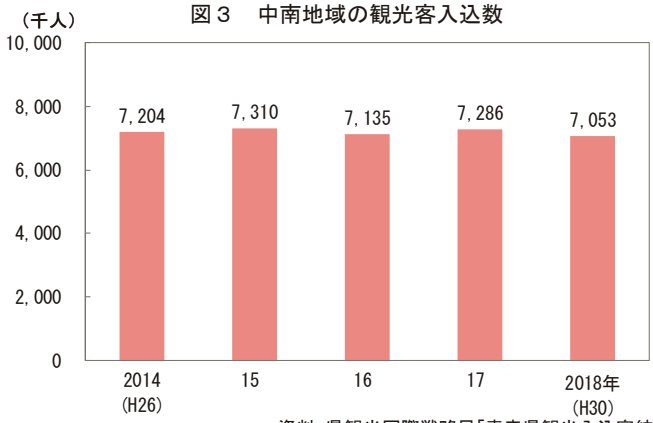


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

中南地域の観光客入込数は、東日本大震災後大幅に減少していたが、徐々に回復し、現在は横ばい傾向にある。**（図３）**

図３　中南地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

三八地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
八戸市	228,622	108,405	305.56
三戸町	10,027	4,283	151.79
五戸町	17,204	7,043	177.67
田子町	5,499	2,168	241.98
南部町	18,101	7,443	153.12
階上町	13,498	5,929	94.00
新郷村	2,458	922	150.77
合　計	295,409	136,193	1,274.89

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

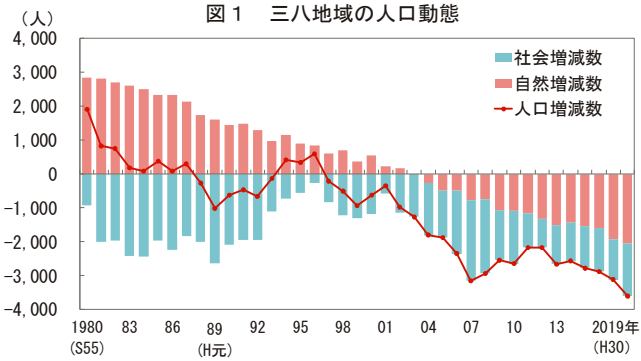
地点 八　戸	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	10.2	26.5	-4.2	1,860.4	1,025.1	248
2019	11.2	34.8	-10.2	2,032.4	920.0	126

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

三八地域の自然動態は、2003 年に減少に転じて以降、減少幅が拡大傾向にある。社会動態は、2013 年以降は概ね 1,200 人前後での縮小が続いていたが、2018 年には 1,557 人に減少幅が拡大した。**（図１）**

図１　三八地域の人口動態



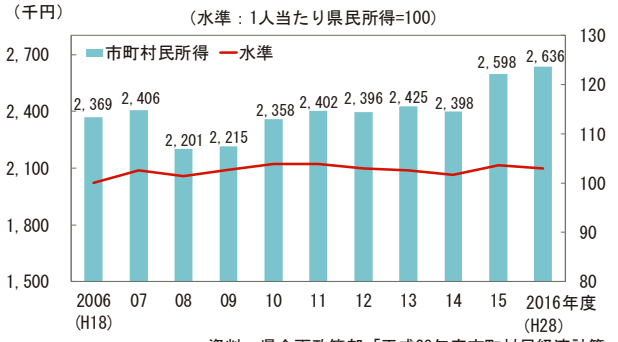
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

三八地域の１人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

また、三八地域の１人当たり市町村民所得水準については、近年減少傾向にあったものの、2015 年度は上昇に転じている。**（図２）**

図２　三八地域の１人当たり市町村民所得

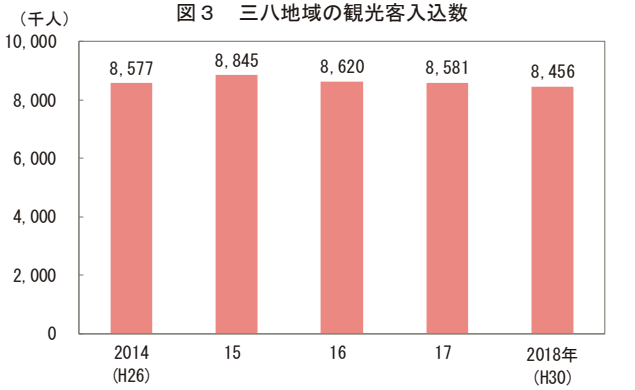


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

三八地域の観光客入込数は概ね横ばい傾向にあるが、2016 年以降は３年連続で減少し、2018 年は約 846 万人となった。**（図３）**

図３　三八地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

西北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
五所川原市	54,316	25,509	404.20
つがる市	32,343	13,558	253.55
鰺ヶ沢町	9,920	4,616	343.08
深浦町	8,127	3,726	488.90
板柳町	13,591	5,463	41.88
鶴田町	12,870	5,399	46.43
中泊町	11,068	5,124	216.34
合　計	142,235	63,395	1,794.38

資料：総務省（人口・世帯数,2019 年 4 月 1 日現在,住民基本台帳）
国土地理院（面積,2018 年 10 月 1 日現在）

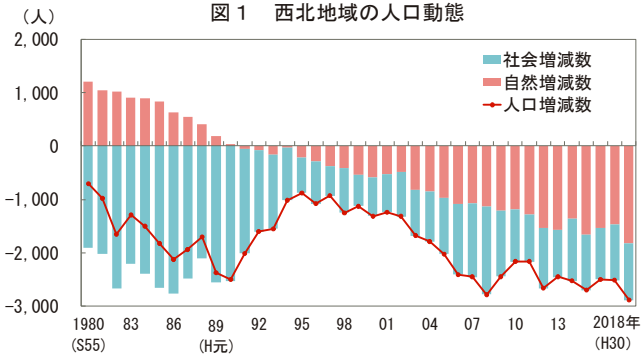
地点 五所川原	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	10.3	28.1	-4.6	1,549.9	1,223.8	582
2019	11.4	35.3	-8.2	1,878.1	995.0	336

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

西北地域の自然動態は、県内で最も早い 1991 年に減少に転じており、これ以降、年々減少幅が拡大してきている。社会動態は 2009 年から 2011 年までは減少幅が縮小していたが、2012 年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。**(図１)**

図１　西北地域の人口動態

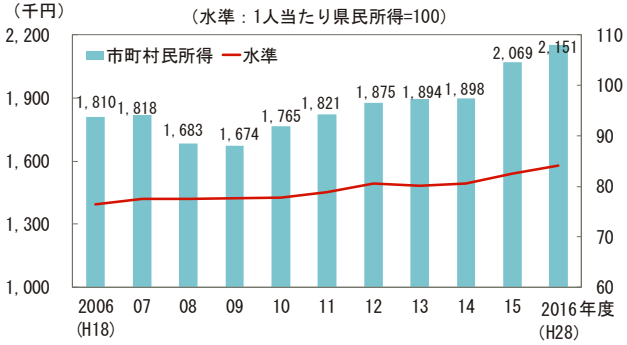


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

西北地域の１人当たり市町村民所得は、2010 年度から増加傾向にある。１人当たり県民所得を 100 とした時の水準は他地域と比較して低い水準となっているが、近年上昇傾向が見られる。**（図２）**

図２　西北地域の１人当たり市町村民所得

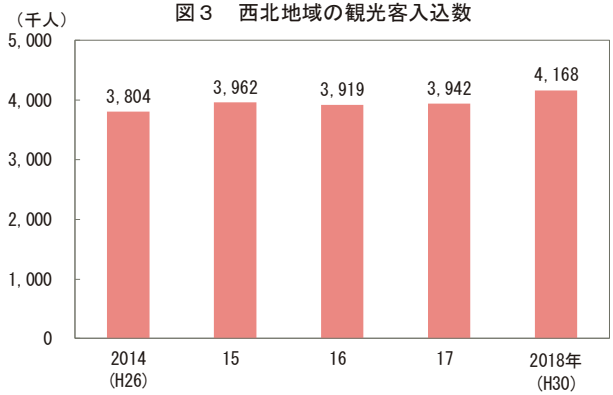


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

西北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響と思われる大幅な減少以降、おおむね横ばいで推移している。**（図３）**

図３　西北地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

上北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km²）
十和田市	61,210	27,483	725.65
三沢市	39,637	19,289	119.87
野辺地町	13,207	6,486	81.68
七戸町	15,603	6,794	337.23
六戸町	11,030	4,475	83.89
横浜町	4,514	2,085	126.38
東北町	17,597	7,269	326.50
六ヶ所村	10,364	4,885	252.68
おいらせ町	25,107	10,290	71.96
合　計	198,269	89,056	2,125.84

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

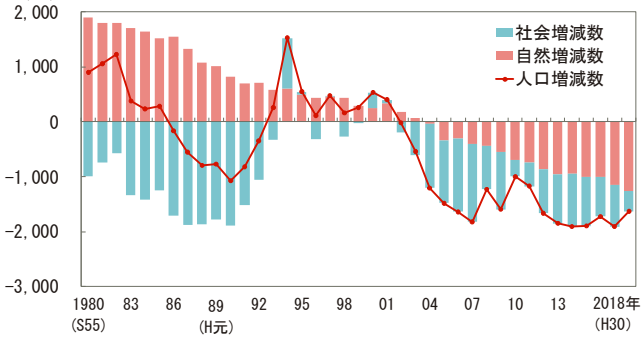
地点 十和田	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	9.5	26.9	-6.3	1,774.7	983.3	437
2019	10.2	34.2	-15.0	1,994.9	844.5	335

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

上北地域の自然動態は、2004 年から減少に転じ、年々減少幅が拡大している。社会動態は 2017 年には減少幅が拡大したが、2018 年には減少幅が大きく縮小し、自然増減数と合わせた全体の人口増減数も減少幅が縮小した。**（図１）**

図１　上北地域の人口動態



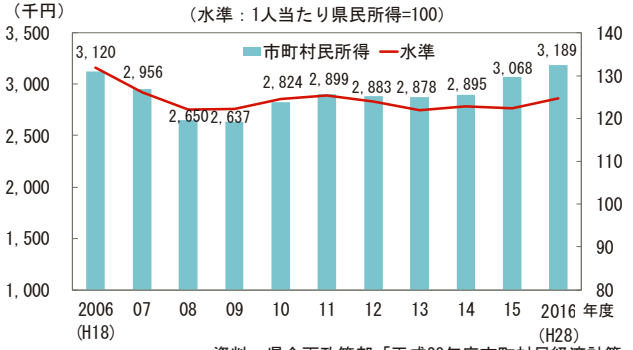
資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

上北地域の１人当たり市町村民所得は、非鉄金属製造業の製造品出荷額等の増加などにより大きく伸びている。

１人当たり県民所得を 100 とした水準は、2001 年度以降、常に１人当たり県民所得の水準を上回っており、他地域との比較でも最も高い水準にある。**（図２）**

図２　上北地域の１人当たり市町村民所得

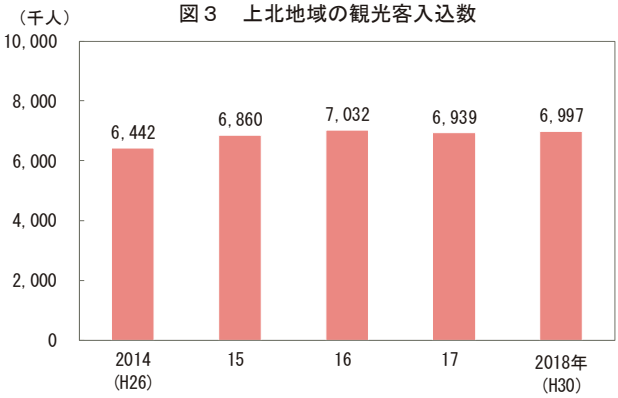


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

上北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響と見られる減少があったものの、近年は 600 万人台後半から 700 万人台で推移している。**（図３）**

図３　上北地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

下北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km^2）
むつ市	57,186	28,921	864.12
大間町	5,279	2,512	52.1
東通村	6,415	2,836	295.27
風間浦村	1,899	926	69.55
佐井村	2,005	948	135.04
合　計	72,784	36,143	1,416.08

資料：総務省（人口・世帯数, 2019 年 4 月 1 日現在, 住民基本台帳）
国土地理院（面積, 2018 年 10 月 1 日現在）

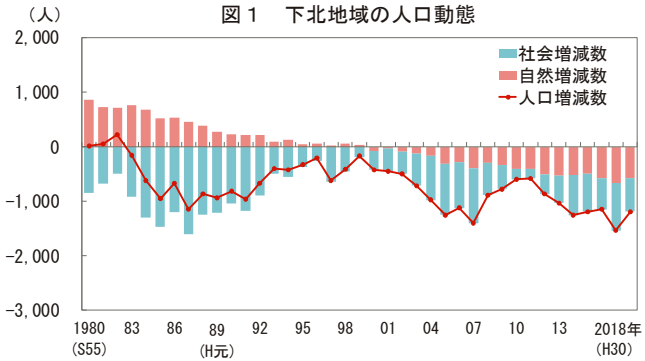
地点 む　つ	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	9.5	25.7	-5.3	1,608.9	1,342.0	514
2019	10.4	33.0	-11.8	180.7	1,037.0	297

※平年値：1981～2010 年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

下北地域の自然動態は、2000 年に減少に転じ、年々減少幅が拡大する傾向にある。社会動態は 2017 年には減少幅が拡大したが、2018 年には減少幅が縮小し、自然増減数と合わせた全体の人口増減数も減少幅が縮小した。**（図１）**

図１　下北地域の人口動態

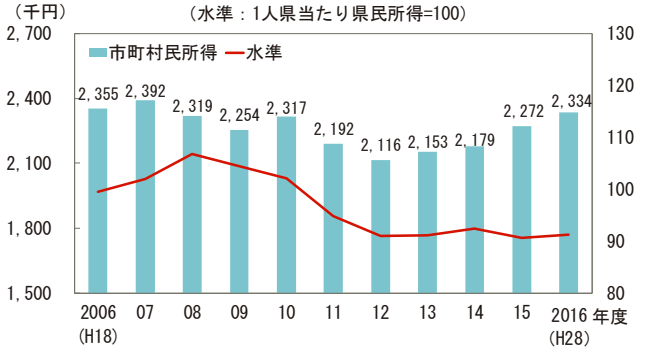


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■１人当たり市町村民所得

下北地域の１人当たり市町村民所得は、2011 年度と 2012 年度に減少が見られるが、その主な原因は企業所得の減少によるものである。1 人当たり県民所得を 100 とした水準は低下傾向にあるものの、ここ数年は横ばいである。**（図２）**

図２　下北地域の１人当たり市町村民所得

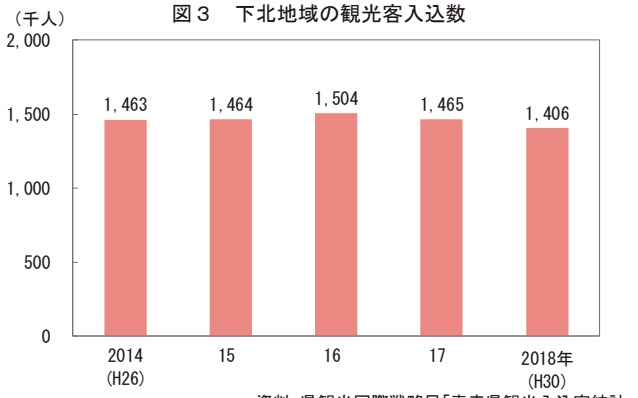


資料：県企画政策部「平成28年度市町村民経済計算」

■観光客入込数

下北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響で大きく落ち込み、2016 年以降は微減傾向にある。**（図３）**

図３　下北地域の観光客入込数



資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

東青地域のここが推し

◆「生姜味噌おでん」でぬぐだまる（青森市）

生姜味噌おでん

「生姜味噌おでん」はすりおろした生姜と味噌を混ぜ合わせたおでん。始まりは冬の厳しい寒さの中、青森駅周辺の屋台のおかみさんが、青函連絡船に乗り込もうとするお客様に少しでも暖まってほしいと考えて作ったのが喜ばれて、広まっていったと言われています。

豊かな海と山の中で育った青森の美味しい食材の味を更に引き立てる生姜味噌は、味はもちろん、体の芯までぬぐだまる（暖まる）こと間違いありません。

青函連絡船は無くなりましたが、今も変わらない青森のソウルフードをぜひ味わってみてください。

◆青の絶景で非日常を満喫！龍飛崎（外ヶ浜町）

津軽半島の周遊スポットで欠かせないのはやはり龍飛崎です。

晴れた日には北海道を見渡せる龍飛崎は、透き通った空の青とどこか奥深さを感じる海の青、そして青を引き立たせる周囲の深緑の自然によって、まさしく青の絶景スポットとなっています。また、岬周辺には日本で唯一の階段国道もあり、周囲を散策して楽しむこともできます。

お食事の際のおススメは何と言っても本まぐろをはじめとする津軽海峡で採れた海の幸。

龍飛崎で「見て」・「歩いて」・「食べて」非日常を堪能しながら心と体をリフレッシュしてみませんか。

龍飛崎

階段国道

中南地域のここが推し

◆小さな物語が今も生きる里「古津軽（こつがる）」

古（いにしえ）の歴史と文化が素朴な風景とともに今も残る中南地域を「古津軽」と呼んでいます。

「古津軽」には小さな物語が今も生きています。豊かな自然との関わり方や、山の神、農の神への感謝と畏怖、鬼や異界との交わり、人と人とのふれあい...。それぞれの里で、語り繋がれた物語は短編小説のようです。

個性豊かな「鳥居の鬼コ」

例えば、岩木川流域には全国的にも珍しい「鳥居の鬼コ」が鎮座している神社が多くみられます。鬼コは、色も形も表情も個性豊か。両肩で鳥居を支えながら、悪霊が集落に入り込まないようにしっかりと睨みをきかせています。

また、夏ともなればどこかで開かれる宵宮、ノスタルジックな温泉街、米どころならではの伝承料理など、古津軽には、古（いにしえ）の歴史と文化が今も残っています。ちょっと不思議で優しい小さな物語をいくつか紡いで、連作の短編集を編む旅へ出かけてみませんか。

◆「津軽塗」を支える国産漆の安定供給をめざして！

青森県を代表する伝統工芸品の津軽塗や国宝・重要文化財建造物の修理等に必要とされる国産漆の需要が高まっていることから、漆資源の確保が課題となっています。そこで、漆資源に関する情報の共有に向けた県や弘前市、津軽塗の関係団体等による連絡会議を設置。優良なウルシ苗木の生産のほか、ウルシに関する理解を促す津軽漆体験ツアーを開催するなど、漆の安定供給を支える「うるしの森づくり」に取り組んでいます。

漆の採取は苗木を植えてから、15 年程度の年月を要します。今後は更にウルシの適正な保護管理方法や漆掻きに必要な技術習得支援など、持続的に漆生産を活気づけ、地域経済の活性化につなげたいと考えています。

三八地域のここが推し

南部氏ゆかりの７つのお城では、「南部お城めぐり」と題して御城印を販売しています。ここでは、当地域の南部氏ゆかりのお城を紹介します。

御城印

◆どんどん発掘が進む「聖寿寺館跡」

聖寿寺館跡は、北東北最大の戦国大名三戸南部氏の最初の居館です。近年、城館中心部分の発掘調査が進み、東北最大の掘立柱建物跡や城門・土橋、珍しい犬形土製品などが確認され、東北地方の戦国史が大きく塗り替えられました。発掘調査現場は毎年５月から 10 月にかけて随時見学可能で、史跡ガイドによる案内も予約制で承っています。史跡聖寿寺館跡案内所では、城館から出土した貴重な品々や解説パネルを展示しています。

聖寿寺館跡全景
（南部町）

◆戦国北奥羽の拠点「三戸城」

三戸城の本丸跡から検出された石垣（三戸町）

三戸城跡は、戦国時代に北奥羽一帯を治めた三戸南部氏が、領国支配の拠点とするために築城されました。城の大手(正面)は西側で、綱門跡→鳩門跡→欅門跡→大門跡を経て頂上の本丸跡に至ります。要所に残る曲輪・土塁・堀など往事を偲ばせる遺構のうち、県内の城跡では特に珍しい石垣が保存されています。天気が良い日には、城跡の頂上から、扇状にそびえる名久井岳や、低地との落差による景色が楽しめます。

◆国内でも珍しい！中世城館の生活を体感できる「根城」

根城は、建武元年(1334 年)に南部師行によって築城されたと伝えられる中世城館です。約 300 年間にわたり南部氏の拠点であった根城は、石垣をもたない土の城です。本丸には、発掘調査成果を元に、安土桃山時代の城の姿が復原されています。復原された馬屋・納屋・工房・鍛冶工房などで城の中の生活を体感できる城は、全国にもほとんどありません。女城主「清心尼」を描いた小説「かたづの！」を片手に、根城を歩いてみませんか？

根城跡全景
（八戸市）

西北地域のここが推し

◆新ご当地グルメ第２弾「メバルちゃんこ鍋」（中泊町）

「中泊メバルの煮付けと刺し身膳」に続いて、新ご当地グルメ第２弾の「メバルちゃんこ鍋」が 2019 年 11 月 10 日にデビューしました。現役関取の「宝富士」と「阿武咲（おうのしょう）」を輩出する中泊町で、相撲にちなんだメニューを冬季限定（11 月～３月）で提供します。

メバルちゃんこ鍋

「メバルちゃんこ鍋」は、「マス席具材」を入れていただくちゃんこ鍋です。スープは津軽海峡メバル醤油スープ、中里産トマト味噌スープ、十三湖しじみ塩スープの３種類で、提供店舗により味が分かれています。

「マス席具材」とは、相撲の観客席「マス席」に見立てた容器に入った中泊町の特産品９品で、**粘り腰**の長いも、タコの**差し身**など、相撲用語に関連したものとなっています。また、食べ方も、力士が土俵入りで塩を撒くように、食べる前には鍋の中にガチンコ塩を撒くのが決まりです。

容器、具材から食べ方まで相撲にこだわった「メバルちゃんこ鍋」、みなさんもぜひお試しください。

※一日の提供数に限りがありますので事前の予約をお勧めします。

◆絶景！大岩と西海岸の夕陽（深浦町　苗代沢）

西海岸の海が一望できる大きな岩で、ＪＲ五能線深浦駅から徒歩５分のところにあります。大岩までは、遊歩道が整備されており、海の間を歩いて渡ることができます。大岩の内部には、大人が１人通れるほどの階段があり、岩上の展望台まで登れば、日本海を 360 度見渡すことができます。

なかでも西海岸の夕陽は深浦町の魅力の一つで、大岩から眺める西海岸の夕陽はまさに絶景です。みなさんもぜひこの機会に訪ねてみてはいかがですか。

道路から見た大岩

大岩周辺から見える夕陽

上北地域のここが推し

◆日本遺産認定のまち（野辺地町）

野辺地町は 2018 年５月に北前船をストーリーとする日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間　～北前船寄港地・船主集落～」に追加認定されました。

江戸時代において、北海道、東北、北陸と西日本を結んだ西回り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれていました。北前船は、米をはじめとした物資の輸送から発展し、船主自身が寄港地で仕入れた多種多様な商品を、別の寄港地で販売する買積方式により利益を上げたことから「動く総合商社」と形容されています。日本海や瀬戸内海沿岸に残る数多くの寄港地・船主集落は、北前船の壮大な世界を今に伝えています。

のへじ祇園まつり

日本遺産のストーリーを構成する野辺地町の北前船関係文化財は、「のへじ祇園まつり」、「浜町の常夜燈」、「旧野村家住宅離れ（行在所）蔵付き」、「末社金刀比羅宮本殿」、「北前船関係資料群」、「北前船船乗りの墓及び擬宝珠」、「北前船が運んだ石造物」、「河原決明の茶がゆ」が挙げられます。

このストーリーを追って、各地を見て回ると思わぬ出会いと発見があるかもしれません。

旧野村家住宅離れ
（行在所）蔵付き

◆幻想的な天王神社のつつじ（七戸町）

春になると、七戸町の市街地にある天王神社の境内では約 500 本のつつじが咲き乱れます。中には樹齢 300 年以上の大木もあり、つつじのトンネル散策や、近接する柏葉公園の展望台からの眺望など、様々な角度から鑑賞することができます。また、期間中は、19 時～21 時までライトアップされ、幻想的な光景を作り出します。

また、同時期には天王つつじまつりが開催され、期間中は 108 段の石段の両脇に絵馬灯篭や短歌が飾られ、境内から流れる琴や笛などの風流な音とともに、咲き誇るつつじを引き立てます。

天王神社の 108 段の階段

境内に立ち並ぶ露店では、あんこの入った団子にだし汁をかけた郷土料理「けいらん」を食すこともできますので、ぜひ一度この絶景をご堪能ください。

◆日本でも貴重なレールバス（七戸町）

旧南部縦貫鉄道七戸駅では、2002 年に廃止となったローカル鉄道「南部縦貫鉄道」の車両キハ１０型などの車両を保管しています。年間を通じて一般公開しており、日本で唯一動態保存している貴重なレールバスを見学できます。また、ゴールデンウィーク中には、「レールバスで遊ぼう」というイベントを行っており、レールバスの体験乗車やグッズ販売をしています。

実際に動いているキハ１０１

◆日本最大級の作付面積を誇る菜の花（横浜町）

横浜町といえば、５月中旬に咲く日本最大級の作付面積を誇る菜の花畑。
1989 年に初めて菜の花作付面積日本一となり、それを機に農業用だけでなく、観賞用としても美しい菜の花を活用した観光が進められました。町の一大イベントである「菜の花フェスティバルｉｎよこはま」をはじめ、

菜の花畑

道の駅よこはま菜の花プラザの「菜の花ドーナツ」や「菜の花ソフトクリーム」など菜の花を活用した商品が開発され、菜の花の町としてＰＲし続けています。

横浜町の菜の花を見るだけでなく、ぜひ一度、味わいに来てみてはいかがでしょう。

菜の花を使った商品

◆おいしい六ヶ所産ブルーベリーを使用した新しいお土産
「ロッカショノースベリーベリーチョコレート」（六ヶ所村）

六ヶ所ごぼうメンチや小川原湖牛コロッケを販売している地元団体「ロッキースタンス」が、六ヶ所村の新しいお土産を開発しました。

ふるさと納税の返礼品でも大人気の六ヶ所産ブルーベリーを、贅沢に使用した一口チョコレートです。ブルーベリーの豊潤な香りと、チョコレートとマッチした濃厚な味わいは、一度食べたら忘れられないおいしさで、子どもから大人まで楽しめる一品です。コンパクトで可愛らしいパッケージのため、手軽に購入できるお土産として大人気です。

ロッキースタンス　ロッキースタンス

ロッカショノースベリーベリーチョコレート

◆不思議な出会いがあるかもしれない「泊の海辺の岩穴」（六ヶ所村）

以前から六ヶ所村の観光地としてＰＲしている「タタミ岩」や「滝の尻大滝」に行く手前の岩穴が、「あるもの」に見えると話題になりました。何に見えるかは、実際に岩穴を見ながら楽しく想像してください。自然の力強さや、不思議な雰囲気を体感できるパワースポットです。

泊の海辺の岩穴

下北地域のここが推し

◆夜に輝く「光のアゲハチョウ」（むつ市）

むつ市には、東北地方随一の夜景があることをご存知ですか？標高 878 メートルの釜臥山に設置された「釜臥山展望台」から眺めるむつ市街の夜景は、宝石をちりばめたチョウのように見え、そのキラキラと輝く様子は、「光のアゲハチョウ」に例えられており、感動的な夜景を楽しむことができます。

2020 年には、むつ市を会場とした「日本夜景サミット」や「全国名月サミット」の開催が予定されており、月と「光のアゲハチョウ」によるコラボレーションの様子は、「インスタ映え」すること間違い無しです。是非、話題のむつ市の「光のアゲハチョウ」をご覧ください。

なお、「釜臥山展望台」の開設は、5 月下旬から 11 月 3 日までとなっています。また、天候により展望台を閉鎖する場合や雲が発生して夜景を見られない場合もありますので、事前にむつ市のホームページ等でご確認ください。

釜臥山から見た「光のアゲハチョウ」

◆下北の偉人　三上剛太郎（佐井村）

1869 年に佐井村の医家である三上家の八代目として生まれた剛太郎は新聞記者となったものの、25 歳の時、父の死をきっかけに医者を志し、佐井村で医業を継ぎました。その後、1904 年の日露戦争開戦に伴い、剛太郎も軍医として従軍しています。

1905 年の中国北東部における戦闘中、剛太郎の包帯所がロシア軍騎兵に包囲され、その時剛太郎が手元にあった三角巾と赤毛布を縫い付けて手製の赤十字旗を作り掲げたところ、騎兵は包囲を解いて立ち去り、多くの負傷兵の命が救われました。

仁愛の医師　三上剛太郎

和風医院の特徴を残す三上剛太郎生家

それから約 60 年後の 1963 年、この手製の旗はスイスのジュネーブで開催された赤十字 100 周年記念国際博覧会で、負傷兵を救った名誉ある「手縫いの赤十字旗」として紹介され、世界の人々の感動を呼びました。現在もこの旗は、仁愛の精神を示すものとして、日本赤十字社青森県支部に展示されています。

帰国後も、佐井村で医業を営んだ剛太郎の生家は、全国的にも貴重な和風医院の特徴を残す建造物として評価され、青森県県重宝に指定されています。館内には、当時、非常に高価だったレントゲンなど、私財を投げ打って地域医療に貢献された三上家の偉跡が伺えます。2019 年に生誕 150 年を迎えた剛太郎の生家を、ぜひ一度ご覧におこしください。